



Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU 用 Cisco UCS B シリーズ サーバアップグレードガイド

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



注意

既存のサーバをアップグレードして Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU を使用するには、このガイドの手順に従ってください。この手順に従わない場合、サーバがブートできなくなる可能性があります。

このマニュアルでは、Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU を使用するように Cisco UCS B シリーズ サーバを正常にアップグレードするプロセスについて説明します。ダウングレードの場合についても説明します。

このガイドの手順は次のサーバをサポートしています。

- Cisco UCS B200 M3 ブレードサーバ



(注)

Cisco UCS B200 Server Generation M2 は Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU をサポートしていません。

Cisco UCS ブレード サーバ

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ソフトウェアおよびファームウェアの最小要件」 (P.2)
- 「Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU へのサーバのアップグレード」 (P.2)
- 「Cisco サーバの Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU のダウングレード」 (P.8)
- 「ボードコントローラのアクティベーション コマンド シーケンスの例」 (P.10)

ソフトウェアおよびファームウェアの最小要件

Cisco UCS B200 M3 の要件

Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU をサポートするために Cisco UCS B200 M3 サーバに必要なソフトウェアおよびファームウェアの最小バージョンは次のとおりです。

表 1 Cisco UCS B200 M3 のソフトウェアおよびファームウェアの最小要件

ソフトウェア/ファームウェア	最小バージョン
Cisco UCS Manager	2.1(3a)
Server CIMC	2.1(3a)
Server BIOS	2.1(3a)
ボードコントローラファームウェア	8.0

Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU へのサーバのアップグレード



(注)

このアップグレード手順では、サーバのダウンタイムが発生します。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「アップグレードシナリオ 1: バージョン 2.1(3a) 以前の UCSM および BIOS、Intel E5-2600 v2 以前の CPU」 (P.3)
- 「アップグレードシナリオ 2: バージョン 2.1(3a) 以降の UCSM と BIOS、Intel E5-2600 v2 以前の CPU」 (P.4)
- 「アップグレードシナリオ 3: バージョン 2.1(3a) 以降の UCSM、CPU は Intel E5-2600 v2、スペアの BIOS はバージョン 2.1(3a) 以前」 (P.6)

アップグレード シナリオ 1: バージョン 2.1(3a) 以前の UCSM および BIOS、Intel E5-2600 v2 以前の CPU

このシナリオでは、次の条件を想定しています。

- Cisco UCS Manager ソフトウェアのバージョンが 2.1(3a) より前
- サーバの BIOS/CIMC バージョンが 2.1(3a) より前
- サーバの CPU が Intel E5-2600 v2 シリーズより前

この場合、サーバと CPU のアップグレードに次の手順を使用します。

- ステップ 1** Cisco UCS Manager ソフトウェアを 2.1(3a) 以降にアップグレードします。必要なサーバ CIMC と BIOS は、2.1(3a) のダウンロードバンドルに含まれています。
- リリース 2.1 (お使いのソフトウェアバージョンによって異なる) 用の適切なアップグレードガイド『[Release 2.1 Upgrade Guides](#)』に記載されている手順を使用します。
- ステップ 2** Cisco UCS Manager 2.1(3a) を使ってサーバの CIMC をバージョン 2.1(3a) 以降にアップグレードし、アクティブ化します。
- 『[Firmware Management Guide, Release 2.1](#)』に記載されている、GUI または CLI の手順を使用します。
- ステップ 3** Cisco UCS Manager 2.1(3a) を使ってサーバの BIOS をバージョン 2.1(3a) 以降にアップグレードし、アクティブ化します。
- 『[Firmware Management Guide, Release 2.1](#)』に記載されている、GUI または CLI の手順を使用します。
- ステップ 4** Cisco UCS Manager でサーバの関連付けを解除します。
- ステップ 5** サーバの電源を切ります。
- ステップ 6** CPU を Intel E5-2600 v2 シリーズの CPU に交換します。
- お使いのサーバ用の『[Blade Server Installation and Service Note](#)』に記載されている手順を使用します。
- ステップ 7** シャーシにサーバを取り付け直します。
- ステップ 8** Cisco UCS Manager がサーバを自動的に検出するまで待ちます。



(注) この時点でサーバのヘルス LED によって重大なエラーがあることが示され、Cisco UCS Manager が汎用エラーメッセージ `WILL_BOOT_FAULT: Sensor failure asserted` をレポートします。これは、ボードコントローラのアクティベーション (次のステップで説明) が必要なためです。

- ステップ 9** Cisco UCS Manager CLI インターフェイスを使ってボードコントローラのアクティベーションを実行します。次の一連のコマンドを使用します。



(注) 以下のシーケンスの `show image` コマンドによって、サーバで使用可能なボードコントローラのバージョンが示されます。`activate firmware` コマンドを使用するときは、必ずボードコントローライメージの最新バージョンをアクティブ化してください。



(注) サーバは `commit-buffer` コマンドの実行後に自動的にリポートします。

```
# scope server <chassis/server>
# scope boardcontroller
# show image
# activate firmware <boardcontroller version>.0 force
# commit-buffer
```

「ボードコントローラのアクティベーションコマンドシーケンスの例」(P.10) も参照してください。

ステップ 10 ボードコントローラのアクティベーションが完了するまで次のステップに進まないでください。アクティベーションが完全したかどうかを確認するには、**show version** コマンドを使います。

次の例に示すように、Activate-Status が Ready を返すまで待ちます。Activate-status が正常に完了し、Ready を返すまで数分かかります。

```
# show version
BoardController:
  Running-Vers: 8.0
  Package-Vers:
  Activate-Status: Ready
```

ステップ 11 Cisco UCS Manager GUI を使って WILL_BOOT_FAULT をクリアし、サーバの CIMC をリセットします。

- a. [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
- b. [Equipment] タブの [Equipment] > [Chassis] > [Chassis number] > [Servers] を展開し、サーバを選択します。
- c. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- d. [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
- e. [Recover Server] ダイアログで、[Reset CIMC (Server Controller)] をクリックし、[OK] をクリックします。

CIMC がリブートし、Cisco UCS Manager がサーバのシャロー ディスカバリを実行するまで待ちます。これには 2 ~ 3 分かかります。このプロセスの最後に WILL_BOOT_FAULT はクリアされます。

アップグレード シナリオ 2: バージョン 2.1(3a) 以降の UCSM と BIOS、Intel E5-2600 v2 以前の CPU

このシナリオでは、次の条件を想定しています。

- Cisco UCS Manager ソフトウェアがバージョン 2.1(3a) 以降
- サーバがすでに BIOS/CIMC バージョン 2.1(3a) 以降を使用している
- サーバが Intel Xeon E5-2600 v2 シリーズ CPU よりも前の CPU を使用している

この場合、サーバはソフトウェアおよびファームウェアの前提条件を満たしています。次の手順を使って CPU をアップグレードします。

ステップ 1 Cisco UCS Manager でサーバの関連付けを解除します。

ステップ 2 サーバの電源を切ります。

ステップ 3 CPU を Intel E5-2600 v2 シリーズの CPU に交換します。

お使いのサーバ用の『[Blade Server Installation and Service Note](#)』に記載されている手順を使用します。

ステップ 4 シャーシにサーバを取り付け直します。

ステップ 5 Cisco UCS Manager がサーバを自動的に検出するまで待ちます。



(注) この時点でサーバのヘルス LED によって重大なエラーがあることが示され、Cisco UCS Manager が汎用エラー メッセージ **WILL_BOOT_FAULT: Sensor failure asserted** をレポートします。これは、ボードコントローラのアクティベーション（次のステップで説明）が必要なためです。

ステップ 6 Cisco UCS Manager CLI インターフェイスを使ってボードコントローラのアクティベーションを実行します。次の一連のコマンドを使用します。



(注) サーバは **commit-buffer** コマンドの実行後に自動的にリブートします。



(注) 以下のシーケンスの **show image** コマンドによって、サーバで使用可能なボードコントローラのバージョンが示されます。**activate firmware** コマンドを使用するときは、必ずボードコントローライメージの最新バージョンをアクティブ化してください。

```
# scope server <chassis/server>
# scope boardcontroller
# show image
# activate firmware <boardcontroller version>.0 force
# commit-buffer
```

「ボードコントローラのアクティベーション コマンド シーケンスの例」(P.10) も参照してください。

ステップ 7 ボードコントローラのアクティベーションが完了するまで次のステップに進まないでください。アクティベーションが完全したかどうかを確認するには、**show version** コマンドを使います。

次の例に示すように、**Activate-Status** が **Ready** を返すまで待ちます。**Activate-status** が正常に完了し、**Ready** を返すまで数分かかります。

```
# show version
BoardController:
  Running-Vers: 8.0
  Package-Vers:
  Activate-Status: Ready
```

ステップ 8 Cisco UCS Manager GUI を使って **WILL_BOOT_FAULT** をクリアし、サーバの CIMC をリセットします。

- a. [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
- b. [Equipment] タブの [Equipment] > [Chassis] > [Chassis number] > [Servers] を展開し、サーバを選択します。
- c. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- d. [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
- e. [Recover Server] ダイアログで、[Reset CIMC (Server Controller)] をクリックし、[OK] をクリックします。

CIMC がリブートし、Cisco UCS Manager がサーバのシャロー ディスカバリを実行するまで待ちます。これには 2 ~ 3 分かかります。このプロセスの最後に **WILL_BOOT_FAULT** はクリアされます。

アップグレード シナリオ 3 : バージョン 2.1(3a) 以降の UCSM、CPU は Intel E5-2600 v2、 スペアの BIOS はバージョン 2.1(3a) 以前

このシナリオは、Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU を使用しているサーバを交換する必要があるが、利用可能な唯一の代替サーバの BIOS がバージョン 2.1(3a) 以前というフィールド サービス固有の状況です。

このシナリオでは、次の条件を想定しています。

- Cisco UCS Manager ソフトウェアがバージョン 2.1(3a) 以降
- 代替サーバが Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU を使用している（古いサーバから CPU を移行後）
- 代替サーバが 2.1(3a) 以前の BIOS/CIMC バージョンを使用している

次の手順を使って代替サーバの BIOS を必要なバージョンにアップグレードします。

ステップ 1 Cisco UCS Manager でサーバの関連付けを解除します。

ステップ 2 サーバの電源を切ります。

ステップ 3 古いサーバから新しい代替サーバに CPU を移します。

お使いのサーバ用の『[Blade Server Installation and Service Note](#)』に記載されている手順を使用します。

ステップ 4 Cisco UCS Manager 2.1(3a) 以降を実行しているシャーシにサーバを挿入します。



(注) サーバは起動せず、BIOS POST の完了を待機してサーバの検出がハングします。BIOS のバージョンが E5-2600 v2 シリーズ CPU をサポートしていない古いバージョンだからです。

ステップ 5 Cisco UCS Manager CLI を使って BIOS をアップグレードします。次の一連のコマンドを使用します。



(注) 以下のシーケンスの `show image` コマンドによって、サーバで使用可能なファームウェアのバージョンが示されます。`update firmware` コマンドを使うときは、必ずファームウェアイメージの最新バージョンをアクティブ化してください。

```
# scope server <chassis/blade>
chassis/server # scope bios
chassis/server/bios # show image
chassis/server/bios # update firmware <server_model>.<firmware version>
chassis/server/bios* # commit-buffer
```

ステップ 6 更新が完了するまで待機します。更新のステータスを確認し、次のコマンドが `Status: Ready` を返すまで待ちます。ステータスが `Ready` になるまで数分かかります。

```
chassis/server/bios # show update status
Status: Ready
```

ステップ 7 新しい BIOS をアクティブ化します。

```
chassis/server/bios # activate firmware <server_model>.<firmware version>
Warning: When committed this command will reset the end-point
chassis/server/bios* # commit-buffer
chassis/server/bios # exit
```

ステップ 8 サーバの電源を再投入し、検出のハング状態を解消します。

```
chassis/server # cycle cycle-immediate
chassis/server* # commit-buffer
```

これで Cisco UCS Manager がサーバの自動検出を実行できるようになりました。

ステップ 9 Cisco UCS Manager 2.1(3a) を使ってサーバの CIMC をバージョン 2.1(3a) 以降にアップグレードし、アクティブ化します。

『[Firmware Management Guide, Release 2.1](#)』に記載されている、GUI または CLI の手順を使用します。

ステップ 10 サーバが Cisco UCS Manager によって検出されるまで待ちます。

ステップ 11 Cisco UCS Manager CLI インターフェイスを使ってボード コントローラのアクティベーションを実行します。次の一連のコマンドを使用します。



(注) サーバは `commit-buffer` コマンドの実行後に自動的にリブートします。



(注) 以下のシーケンスの `show image` コマンドによって、サーバで使用可能なボード コントローラのバージョンが示されます。`activate firmware` コマンドを使用するときは、必ずボード コントローラ イメージの最新バージョンをアクティブ化してください。

```
# scope server <chassis/server>
# scope boardcontroller
# show image
# activate firmware <boardcontroller version>.0 force
# commit-buffer
```

「[ボード コントローラのアクティベーション コマンド シーケンスの例](#)」(P.10) も参照してください。

ステップ 12 ボード コントローラのアクティベーションが完了するまで次のステップに進まないでください。アクティベーションが完全したかどうかを確認するには、`show version` コマンドを使います。

次の例に示すように、Activate-Status が Ready を返すまで待ちます。Activate-status が正常に完了し、Ready を返すまで数分かかります。

```
# show version
BoardController:
  Running-Vers: 8.0
  Package-Vers:
  Activate-Status: Ready
```

ステップ 13 Cisco UCS Manager GUI を使って WILL_BOOT_FAULT をクリアし、サーバの CIMC をリセットします。

- a. [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
- b. [Equipment] タブの [Equipment] > [Chassis] > [Chassis number] > [Servers] を展開し、サーバを選択します。
- c. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- d. [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
- e. [Recover Server] ダイアログで、[Reset CIMC (Server Controller)] をクリックし、[OK] をクリックします。

CIMC がリブートし、Cisco UCS Manager がサーバのシャロー ディスカバリを実行するまで待ちます。これには 2 ~ 3 分かかります。このプロセスの最後に WILL_BOOT_FAULT はクリアされます。

Cisco サーバの Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU のダウングレード



(注) このダウングレード手順ではサーバのダウン タイムが発生します。

このシナリオでは、次の条件を想定しています。

- Cisco UCS Manager ソフトウェアがバージョン 2.1(3a) 以降
- サーバが BIOS/CIMC バージョン 2.1(3a) 以降を使用している
- サーバが Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU を使用している

次の手順を使って以前のサポート対象 CPU にダウングレードします。

ステップ 1 Cisco UCS Manager でサーバの関連付けを解除します。

ステップ 2 サーバの電源を切ります。

ステップ 3 Intel E5-2600 v2 シリーズ CPU を以前のサポート対象 CPU に交換します。

お使いのサーバ用の『[Blade Server Installation and Service Note](#)』に記載されている手順を使用します。

ステップ 4 シャーシにサーバを取り付け直します。

ステップ 5 Cisco UCS Manager がサーバを自動的に検出するまで待ちます。



(注) この時点でサーバのヘルス LED によって重大なエラーがあることが示され、Cisco UCS Manager が汎用エラー メッセージ `WILL_BOOT_FAULT: Sensor failure asserted` をレポートします。これは、ボードコントローラのアクティベーション（次のステップで説明）が必要なためです。

ステップ 6 Cisco UCS Manager CLI インターフェイスを使ってボードコントローラのアクティベーションを実行します。次の一連のコマンドを使用します。



(注) サーバは `commit-buffer` コマンドの実行後に自動的にリブートします。



(注) 以下のシーケンスの `show image` コマンドによって、サーバで使用可能なボードコントローラのバージョンが示されます。`activate firmware` コマンドを使用するときは、必ずボードコントローラ イメージの最新バージョンをアクティブ化してください。

```
# scope server <chassis/server>
# scope boardcontroller
# show image
# activate firmware <boardcontroller version>.0 force
# commit-buffer
```

「[ボードコントローラのアクティベーション コマンド シーケンスの例](#)」(P.10) も参照してください。

ステップ 7 ボードコントローラのアクティベーションが完了するまで次のステップに進まないでください。アクティベーションが完全したかどうかを確認するには、`show version` コマンドを使います。

次の例に示すように、Activate-Status が Ready を返すまで待ちます。Activate-status が正常に完了し、Ready を返すまで数分かかります。

```
# show version
```



```
BoardController:
  Running-Vers: 8.0
  Package-Vers:
  Activate-Status: Ready
```

ステップ 8 Cisco UCS Manager GUI を使って WILL_BOOT_FAULT をクリアし、サーバの CIMC をリセットします。

- a. [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
- b. [Equipment] タブの [Equipment] > [Chassis] > [Chassis number] > [Servers] を展開し、サーバを選択します。
- c. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- d. [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
- e. [Recover Server] ダイアログで、[Reset CIMC (Server Controller)] をクリックし、[OK] をクリックします。

CIMC がリポートし、Cisco UCS Manager がサーバのシャロー ディスカバリを実行するまで待ちます。これには 2 ~ 3 分かかります。このプロセスの最後に WILL_BOOT_FAULT はクリアされます。



(注) サーバ BIOS および CIMC が含まれる Cisco UCS Manager 2.1(3a) バンドルは以前のサポート対象 CPU と下位互換性があるため、次のファームウェア ダウングレード手順は任意です。

ステップ 9 任意：サーバ CIMC をダウングレードします。

『[Firmware Management Guide, Release 2.1](#)』に記載されている、GUI または CLI の手順を使用します。

ステップ 10 任意：サーバ BIOS をダウングレードします。

『[Firmware Management Guide, Release 2.1](#)』に記載されている、GUI または CLI の手順を使用します。

ボードコントローラのアクティベーションコマンドシーケンスの例

次に、サンプル値を使ったコマンドの例を示します。

```
Box-A# scope server 1/4
Box-A /chassis/server # scope boardcontroller
Box-A /chassis/server/boardcontroller # show image
Name                                     Type                                     Version
-----
ucs-b200-m3-brdprog.3.0.gbin           Board Controller                       3.0
ucs-b200-m3-brdprog.8.0.gbin           Board Controller 8.0
```

```
Box-A /chassis/server/boardcontroller # activate firmware 8.0 force
Warning: When committed this command will reset the end-point
Box-A /chassis/server/boardcontroller* # commit-buffer
```



(注)

サーバは **commit-buffer** コマンドの実行後に自動的にリブートします。

```
Box-A /chassis/server/boardcontroller # show version
BoardController:
  Running-Vers: 8.0
  Package-Vers:
  Activate-Status: Activating
```

```
Box-A /chassis/server/boardcontroller # show version
BoardController:
  Running-Vers: 8.0
  Package-Vers:
  Activate-Status: Ready
```



(注)

show version コマンドが **Activate-Status: Activating** を返すと、プロセスの実行中で完了していません。コマンドが **Activate-Status: Ready** を返すと、プロセスは完了しています。プロセスには数分かかります。

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>